

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

所属:志政クラブ

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171
FAX.050-3161-7663



双方向の情報交流

風しんワクチン接種の無料化を盛り込む予算修正を果たす

私は、第2定例会に提出された補正予算の中で、風しんの予防接種促進事業に関して、町田市が自主予算を組まず、東京都の補助金のみで当事者に5000円の負担を課すスタンスの是非を問いかけました。東京都内23区の大半と東京都内の市部の少なくない自治体が本人負担無しとしています。お隣りの八王子市や多摩市はもちろん、自主予算を上乗せしており、本人負担はありません。

風しんの流行に対して、せっかく東京都がその予防接種促進事業を創設したのに、町田市でも予算を上乗せして当事者負担を無くす発想が先進自治体のあるべき姿ではないかとの観点から、町田市行政の独断的な姿勢を厳しく質しました。

私が所属する市議会の会派「志政クラブ」は、今回の町田市の方針を消極的だと見なし、当事者負担を無くすために、町田市の計画を変更させるための自前予算を追加する補正予算修正案(3人以上で提出可能)を、今季の定例議会最終日採決前に提出しました。必要な財源は、市の財政積立金を充当する内容としました。本会議において、この修正案を賛成多数(16×15)で可決しました。町田市において議会の予算修正は32年ぶりの快挙でした。

32年ぶりの予算修正は市長の「再議」で降り出し、原案可決

しかしながら、市長は、修正案を受け入れず、「再議」(再度、元の補正予算を議会に

提出する)に出しました。再議では3分の2以上の修正案支持が必要であり、市長の思惑通りに事態は収束しました。ただし、これは市民にとっては不幸なことです。

私たち(志政クラブ)の提案は17×15で否決となり、半額(5千円)を本人負担に差し戻す内容の予算が決定しました。

私は再議の質疑で、全国の多くの自治体では公衆衛生の観点から緊急措置としてその行政負担を行い、国が共通施策として財政負担を求めていることを資料として示し、個人負担無しとした近隣自治体の考え方を示しました。八王子市は、多摩地域のリディングシティの考えを持っており、「子どもたちの安全・健康を守る」視点で、多摩市は「子育て支援が重点施策」と言う考え方で、同様に無料で実施しています。今回、町田市は公衆衛生の分野でも、自己負担を原則とするリーディング都市を宣言したようです。



今回の結果を評して、「市長の勝ち」と記した新聞がありました。実際には、これは「市民の負け」であり、現実には、市長が専制権に等しい権力をもつのが実態です。議会は付帯意見と言うもので、かすかに市民負担を減ずる方向性を示しました。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

発行 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12サンホワイトE103-13吉田つとむ事務所

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

吉田つとむ自宅

〒194-0011
東京都町田市
成瀬が丘1-14-12
サンホワイトE103-13
☎042-795-7361



次期インターン生を
募集しています

地方を国と差別しない選挙 の公報ビラ作成を求める

今回の参議院議員選挙より、インターネットを使った選挙運動が解禁されました。この選挙運動におけるインターネット解禁の法改正は、その後の国政選挙に限らず地方議員の選挙にも同様に適用されるものと考えています。政治家・議員の理念や政策、あるいは成果を国民・住民が正しく評価するためには大きな前進となると思います。

ところで、現在まで衆議院・参議院選挙では候補者ビラを各々配布できましたが、都道府県会や市区町村議会の選挙では候補者ビラが配布できないことになっています。つまり、地方と国の議員では、選挙運動の制限に大きな差別が存在してきました。

私はこうした差別をなくす主張を国に対して意見書としてまとめました。幸い、町田市議会ではこの提案に協力者があり、議案として提出すると全議員の賛同を得て、全会一致で可決しました。(第1定例会=3月議会の最終日に採決)ぜひ、国会は、国と地方の政治家を差別しないようお願いしたいと思います。

なお、以下はその文中の引用です。

わが国の隅々で地道な活動を日夜行っている地方議員に対して、国会議員と格差なく正しい配慮があつてこそ、真の地方の時代が訪れることはいうまでもない。

よって、町田市議会は、地方と国が同等の時代に即した公平な地方自治を推進するため、地方議員選挙にも規定ビラの使用が認められるように、公職選挙法の文書図画の頒布規定に関する改正を強く求めるものである。

風しんワクチンの不足解消を 求めた意見書を提出し、可決

「風しん」の流行に関して、町田市はその接種費用の公費負担を渋っていますが、その経過状況は、別記事に記載する通りです。以下の文章は、「風しんワクチンの不足を解消する措置を講じることを求める意見書」のタイトルで、町田市議会が国に提出した要請書の要旨です。この意見書は、私が所属する志政クラブが単独で提案したもので、筆頭署名人の私が壇上で提案説明したものです。

「今後、風しん予防接種者が増加の一途をたどる見込みで、現状では本年8月末には風しんワクチンが不足するとされている。その対応策として、国は検査で抗体が不十分だった妊娠希望者や、妊婦が近くにいる男性らの接種を優先するようすすめている。

ただし、それでは抜本的な対策にはならず、国においては国民の健康増進の施策として、風しんワクチンを速やかに確保して、安定供給することが急務である。

よって、国が責任を持って、その風しんワクチンの不足を解消するための必要な措置を速やかに講じることを求める。」



掲載記事、あるいはご関心事は、下記のFAXかもしくはメールまでご送信ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

Mail : yoshidaben@gmail.com mobil : yoshidaben@docomo.ne.jp

市議会報告・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集

町田市議会

所属:志政クラブ

〒194-8520
東京都町田市
森野2-2-22
TEL.042-724-2171
FAX.050-3161-7663



新産業創造センターの課題

町田市に新産業を興そう、創業を支援しようと言う趣旨のインキュベート施設が今年の4月に完成し、スタートしました。私は、前の市長時代にさんざんこの種の施設の必要性を唱えていたことで、実際には待ちくたびれたというのが実感でした。

ただし、課題は多くあります。この問題は、一般質問でも取り上げた内容も含まれます。

まずは、スタート時までに入居が終わっていないことが、あるいは人事で専任の社長が決まらず、職を充てた副市長が就任したことがあげられます。

まずは入居の問題ですが、私自身が入居者を探す目的で早くからその入居要領を求めていたのですが、その作成自体がぎりぎりになって準備され、まさにお役所仕事でした。民間であれば、入居の見当をつけるためにもその要綱を明らかにし、完成時には希望者が満杯と言う形でスタートするのが一般だと思います。予定していた外部から招へいする専任の社長が決まらないのも、その責任だけを取らされるのを敬遠されてのことかも知れません。

町田市には、体一つで事業を起こし、東証一部に上場して今も成長する企業の経営者もあり、私のインターン生の中にも、自分が創業して東証マザーズに上場して人気を博している企業があります。そうした自分自身で創業・上場の経験を持つ人物があるのに、国や都の政治家ばかりに目を配る行政のあり方が改まることのないのでは、この施設が名声を博することは無理でしょう。

都市間競争と町田市の考え方



「都市間競争」と言う言葉がよく言われ、私も使用しますが、改めて一般質問において、「町田市が考える、都市間競争の考えと相手」を尋ねました。

私の質問に対して、答弁は曖昧模糊としていました。明白だったのは部長答弁で「千葉市」をライバルに上げたことでした。

町田市が一般市であるのに対し、千葉市は以前から「県都」であり、今は政令指定都市にも昇格しています。これまで、石阪市政になって以降、町田市が政令指定都市を目指しているとは行政から聞いたこともなく、国や東京都の機関や施設を町田市が誘致した話題もありません。私は、町田市が競争相手としているその千葉市にはしばらく出向いたことが無いので、時間を見つけて、千葉市議会や街を訪れ、その市政を見てみたいと思っています。どうぞ、その際は、千葉市の皆さんよろしくお願ひいたします。

なお、相模原市や八王子市などの近隣都市とは協力関係を結ぶ間柄があり、都市間競争の相手とは言い切れないものです。今後、町田市はどうあるべきか、真剣に考えるべき課題だと思っています。

★第3定例会の主な日程：8月23日告示・8月30日議案提案・9月4日～10日一般質問
11日本会議質疑・12～13日常任委員会・18日～10月3日決算委員会・10月8日表決

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘1-14-12サンホワイトE103-13吉田つとむ〔町田市議会議員〕

納税者主権の政治・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



市議会の見学・訪問

32期インターン生募集

インターン生の募集は、今期〈夏期間〉で32期を迎えています。現在、2名のインターン生が応募し、8月～9月の夏休み期間に研修を受ける予定になっています。

なお、同時期にはマックス3名と考えていますので、もう1名の受け入れが可能です。特に、夏休みが遅い期間の学生の応募を期待しています。(ネットを駆使する福田峰之衆議院議員を訪問し、インタビューしました)



31期研修生の見学記

昭島市にある日本電子に見学に行かせて頂きました。TEMやSEMとよばれる電子顕微鏡や、医療の分野で使われている自動分析装置などを見て回り、それぞれの装置の仕組み、特徴などを教えていただきました。この分野ではトップクラスである日本電子の製品ならば、わたしが見学した装置も最先端の装置であると思うのですが、まだ大学一年生で、本格的な実験もしたことがなく、装置がどれほど最先端で、どれほどすごいのか、完全には理解しきれず、そう思うと

少し残念でした。しかし、そんな私でも大体は理解できるよう易しく噛み砕いて説明して頂きました。案内して下さった方が、日本電子では、研究や、お客様の要望に合わせて作るのに熱心だ、とおっしゃっていた通り、「会社」からイメージされる印象とは違って、大学の研究室のような雰囲気のところでした。将来研究室などで日本電子の機器を使うようになるかもしれません。その日が楽しみになってきました。

(第31期研修生：林 泉(いずみ)作成
東京大学教養学部2年生・1年春休みの記事)



(研究所内で記念写真:以下の文は吉田作)

日本の最先端科学技術の分野である理化学機器の製造メーカーである日本電子株式会社を訪ねました。1年生の林 泉(いずみ)さんは進路が工学部であり、機械に関心を持っていることで今回のプログラムになりました。なお、ここにあるTEMとは透過電子顕微鏡のことで、SEMは走査電子顕微鏡のことです。

詳しくは、日本電子株式会社 (JEOL Ltd.) (<http://www.jeol.co.jp>) をご覧下さい。

★吉田つとむのインターンシップについて〈1998年～現在31期まで〉

大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を行っている研修制度です。

インターン希望の方、あるいは関心がある方は、ホームページ掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。